

## 「ひょうご交流センター事業『ジャポニズム展』」を開催 兵庫県パリ事務所からの報告～

県パリ事務所では、芸術、観光、経済と幅広い分野での日仏交流の場である「ひょうご交流センター」の事業として、この9月8～12日までの期間、19世紀の印象派芸術にも強い影響を与えた「ジャポニズム」の流れを追った展示会を開催しました。

フランス美術界を中心にヨーロッパで19世紀より強まった日本趣向の大きな潮流は、フランスで正式に「ジャポニズム」と名付けられ、美術界に留まらず工業デザインにも影響を及ぼし、その後のアールヌーボーやアールデコへの世界的な芸術運動にも繋がって行きました。

県の友好提携先であるセヌ・エ・マルヌ県の協力をいただき、同県で「ジャポニズム」を研究しその関連物を収集しているアントワネット・マルタン氏の貴重で膨大な個人收藏コレクションから、厳選された品150点をその歴史に沿って展示し、ジャポニズムの源流からその影響を汲むアールヌーボーへの流れを俯瞰する展示会を開催しました。

開催初日のオープニング交流会では、同県のエブレ議長夫妻も駆け付け、こうした仏式オープニングに付きもののワインの代わりに兵庫県産の日本酒を紹介し、日本の味を味わいながら参加者が交流を深めました。

5日間で約200名の方が鑑賞し、好評の中、「このような系統立てたジャポニズム展示は初めてで、大変分かりやすく興味深く面白かった」「これまで芸術作品のみの視点から語られることの多かった『ジャポニズム』が、当時の欧州の生活文化でどのように息づき、時代の流れに溶け込んでいたのかが良く分かった」などの感想が聞かれました。



ひょうご交流センター内展示会場



展示品の数々



当時の日本文化の神秘的な魅力を探す



所有者のマルタン氏の解説を聞きながら鑑賞

※詳細についてのお問い合わせは

(公財)兵庫県国際交流協会 企画広報課, 交流・協力課  
TEL 078-290-9267 まで